

日本医療検査科学会 科学技術委員会
2022 年度第 2 回委員会議事録

1. 日時：2022 年 10 月 7 日（金）13:00～14:30
2. 場所：神戸国際会議場 503 号室
および ZOOM によるオンライン参加
3. 出席者（敬称略）：藤本、大久保、澤部、白井、三村、神山、山本慶、外園、清宮、田中、川崎、汐谷、山内、柏木、御子柴、金沢、青柳、沼田、山本裕、和田、関田、山口、緒方、春田、新井、角田、姫野、黄江、三宅、倉村、桑
欠席者（敬称略）：篠原、高崎、菊地、末吉、山下、岡田、藤田、大澤、片岡

4. 配布資料：

- 資料 1：第 54 回大会シンポジウム抄録
- 資料 2：2022 年度第 1 回会議議事録（佐賀）
- 資料 3：第 54 回大会モーニングセミナー抄録
- 資料 4：第 23 回科学技術セミナー講演要旨
- 資料 5：第 23 回科学技術セミナーテキスト
- 資料 6：第 21 集マニュアル執筆者案
- 資料 7：第 22 集マニュアル企画案
- 資料 8：今後の学会スケジュール
- 資料 9：2022 年度科学技術委員会委員名簿

5. 議事：

（1）第 54 回大会シンポジウムの報告（資料 1）

本日（10 月 7 日）10 時より科学技術委員会担当のシンポジウムが実施された。司会
は山内先生、汐谷先生が担当され、参加者数も多く盛況であった。また、血清情報の新
たな使い方など、新規の知見も得られて有意義であったとの報告があった。

（2）2022 年度第 1 回科学技術委員会議事録について（資料 2）

本年度第 1 回の科学技術委員会は 4 月 16 日に佐賀において開催され、現地での参加
とオンライン参加によるハイブリット形式で実施された。議事録は会議終了後に委員全
員にメールにて配信されており、すでにご確認いただいているものである旨説明があっ
た。

(3) 令和5・6年度の委員長選出について

学術委員会の委員長任期は、2年2期・計4年との規定があり、現委員長の藤本先生は今年度いっぱいまで委員長任期が満期となることから、次年度以降の委員長を決定する必要がある。前回は執行部（委員長、副委員長、事務局）が候補者を選出した後に、本人に承諾していただく形で決定した。選考方法は色々ある（委員長による指名、委員による選挙など）と思うが、今回は民主的にまず立候補を募りたい。立候補者がいない場合には執行部にて候補者を選定し、改めて委員会に図ることとなった。

(4) 第54回大会モーニングセミナーについて（資料3）

科学技術委員会担当のモーニングセミナーが、明日（10月8日）朝8時から実施される。テーマは「再検査」であり、講師を担当される山本裕先生と藤本先生から発表内容の説明があった。司会は黄江先生と姫野先生にお願いしており、朝食も付くので多くの先生方には是非参加していただきたい。

(5) 第23回科学技術セミナーについて（資料4,5）

今年の科学技術セミナーは、学会最終日（10月9日）13時～15時半の2時間半の日程で実施される。講師の山内先生（採血関連）、角田先生（分析関連）、藤本先生（分析関連・精度管理関連・その他）、黄江先生（精度管理関連・その他）、山本慶先生（精度管理関連・その他）から講演内容の説明があった。

司会は藤本先生と大久保先生であるが、オンデマンド配信においても記録が残るように藤本先生が司会用のスライドを作成したので、会の開始時に大久保先生がこのスライドを使用してセミナーの主旨を説明することになった。質疑応答は各演者毎に行い、時間が余れば全体質疑も行うこととした。

例年、今後のセミナーや委員会活動への参考とするためにアンケート調査を実施しているが、今年は事務局（澤部）が現地参加できないことから、アンケートの配布と回収についてご協力をお願いしたい旨の依頼があった。

(6) 第21集マニュアルについて（資料6）

今年度中に発刊を予定している第21集マニュアルの内容、執筆者について検討した。テーマを「治療および治療薬物による検査値への影響」から「治療薬物および透析による検査値への影響」と変更することとした。今回は外部委員による執筆が多いことが特徴であるが、執筆候補に挙がっている先生方にはよろしく願いたい。原稿締め切りが11月、校正が12月、発刊を翌2月のスケジュールで計画している。

(7) 第22集マニュアルテーマについて（資料7）

次号第22集のマニュアルテーマについて議論した。2005年に刊行された第5集の「極端値・パニック値マニュアル」は評価が高かったが、古いマニュアルは見る機会が少なく、現在では入手も困難である。また、2005年当時から機器・試薬もバージョンアップし、各種の新知見も加わっていることから「令和版の極端値・パニック値対応マニュアル（仮）」を次号テーマとすることに決定した。

異常値の臨床的な解説だけでなく、検査ミスや溶血など測定上の過誤に起因する異常値も含めた方が、若い技師には使用しやすいとの意見があった。厳密なパニック値に対応する項目はさほど多くないし、病院毎に対応が異なる部分も多いので、本書で扱うパニック値、極端値の定義を定める必要があるとの意見も挙げた。

(8) 今後の委員会活動について

第21集マニュアルを今年度中に刊行予定であるので、執筆者以外の委員も校正を含めてご協力のほどよろしくお願ひしたい。今回のマニュアルで執筆されていない先生は、次号マニュアルの執筆を是非お願ひしたい。これから次回マニュアルの組み立ても実施していく。

(9) 次回の委員会（資料8）

次回の春季セミナーは、2023年4月15,16日の日程で仙台で開催され、その際に第1回委員会を実施予定である。なお、第55回大会は10月6～8日の日程でパシフィコ横浜で開催される。

(10) その他

現在、自施設で経験したことを収集する手段がないため、ネットを活用して情報の収集・登録と閲覧ができるシステムがあると有用である（特に薬物治療の影響に関して）。学会において是非このような情報収集システムを構築して欲しいとの要望が、桑先生よりあった。

今回から委員として参加いただいている倉村先生（天理よろづ相談所病院）より挨拶があった。

以上

（記録：澤部）